

緑のまち

—北国分だより—



編集 北国分外環対策協議会

市川市北国分 2-29-12 越田方

Tel 047-372-8936

www.midorinomachi.net

第 108 号 2014. 1. 20 発行

迎 春

2014年



亀戸の天神様

松林 マサ子

天満宮に祭ってある菅原道真は、天神様として、学問の神様で有名だが、天神様のご利益は、今日では受験合格、詩歌・文筆・芸能上達、農業守護、商売繁盛、病氣平癒だそうである。久しぶりに亀戸天神に参拝した。神殿や破魔矢などのところは昔のままだが、大鳥居からスカイツリーが見え、大小二つの太鼓橋に階段がついていた。前年の凶を嘘にして、今年を吉に変えてくれる鶯替えの「鶯」が、新しく大きくなっていた。



今から40数年前に結婚して最初に移り住んだのが亀戸5丁目。アパートなのに、名前はそのころはやりのコーポと付いていた。当時の亀戸は活気ある労働者の町で、商店街も多く賑やかで、買物には困らない。旬の野菜や魚が店に出回ると、料理の仕方や保存方法を教えてくれた。みんなが親切だった。

子どもが生まれ、銭湯に行くと、おばちゃんたちが競って赤ん坊の子どもを受け取り、私に「ゆっくり入っておいで」と言ってくれる。頃合いを見て、子どもの衣類を脱がして手渡され、洗い終われば脱衣所から子どもを受け取り、衣類を着せて待っていてくれる。新米の母親にはなんともありがたい場所だった。知り合いもないこの町で、おいしくて安い店や、この町の決まり事を教えてくれた貴重な場所だ。天神様の初穂料のことも然りである。亀戸天神には、お宮参りや七五三などに双方の親が来て、孫の成長を楽しみにしていた。若い夫婦と孫の健康を願い、平穩、平和を祈っていた。それ以外でもよく出掛け、境内の池で親子亀を見つけては、楽しい話を聞かせ、藤まつりでは、重い孫をがんばって抱っこやおんぶして藤の花の香りに触れていたこと、いつもは買ってもらえない屋台の店の食べ物をベンチで楽しく祖父母たちと食べていたことなど、親とは違う甘い愛情いっぱい、子どもと一緒に育ててくれたことが思い出される。どちらの親もすでに亡くなったが、本当に感謝している。にわか参拝だったが、胸が熱くなる天神様であった。帰り際におみくじを引いたら小吉だった。2014年の幕開け、厳しい年であるが、だれもが健康で平和に暮らせることを願わずにはいられない。

初 春

しなやかに初日放てり 大王松

井沢 禎子

あらたまの始まる今日の雀かな

石川みさ子

賑やかな客の揃ひて 切山椒

伊藤 政代

松に竹 南天添えて花器かざる

宇佐美てつ子

初詣 子供頼りの笑顔かな

小野テル子

心経の文字ふくいくと初観

笹沼 祐司

初恋の事はさて置き御慶かな

山本 愛子

ゴビ砂漠で化石発見

恐竜玉子 伊達巻いくつ出来るかな

三好ひろし



県内シニア合唱団に参加して

佐々木 陽子

昨年 12 月 1 日、千葉市京葉銀行文化プラザホールで行われた第 7 回千葉県うたごえフェスティバルに参加しました。

私はシニア合唱団のひとりとして「見上げてごらん夜の星を」と「かけがえのない人生」を歌いました。シニア合唱団は月 1 回県内各地から集まった人達で、日本の歌、世界の歌を楽しく歌っています。「シニア」の名の 60 代以上の元気な歌好きな人達です。当日はたくさんの人達が応援にかけつけてくれ、50 名以上の大合唱となり、心一つにして歌うことができました。

歌声フェスティバルには、県内から多くの合唱団が参加しました。7~8 人の若者達の小さな合唱団、100 名近くの大合唱もあり、美しいハーモニーが会場に響きわたり、圧倒されました。

最後に会場全体で歌った「ハッピーバースディ」は、とても素晴らしく私の大好きな歌になりました。北国分にも、私が参加している「緑のまち合唱団」があります。月 1 回小塚山研修所で歌っていますので、近いですから、歌の好きな方、のぞいて見てください。

* 毎月第 4 土曜日午後 1 時より

東京初空襲の日 ノースアメリカンB-25との遭遇

石居 靖弘

「靖弘、外に出て御日様に当たってきなさい」と母の声。私は家の二階でいつも工作をして、外で遊ぶのがきらいでした。家は現在の台東区竜泉寺で、西に十軒行くと昭和通りでした。その通りでは兵隊さんが隊列を作り、中型戦車などをよく見ました。その日は、4月18日の昼ごろでした。三ノ輪の方から飛行機の爆音、右上を見上げると超低空で双発の爆撃機が迫ってきました。胴体横に丸に星マーク、翼にも同じ印、機体後部の機銃操者が下をキョロキョロと私の目と合いました。私は無我夢中で家に走りました。「お母さん、アメリカのヒコウキが飛んできて、大変だ」。母は私の意味がわからず、「警戒警報がなくていきなり空襲警報が鳴ったのよ、大変」と、言いながら慌てふためいておりました。そのうち、高射砲が鳴り響きました。私が小学校3年生の時です。

昭和17年4月18日は、アメリカ陸軍中型爆撃機B-25の16機が日本を初空襲した日でした。私が7年前、近くの図書館で「ドゥーリットル隊の東京空襲」の本を読み、この時の機体がドゥーリットル隊長の乗った一番機だと知ることになるのです。ハワイ真珠湾攻撃では戦艦ばかりで空母が寄港しておらず、空母を沈められなかったことから空母機動部隊に北から東京を奇襲されてはと、海軍は三陸沖に16キロ間隔で漁船（海軍の兵隊）何十隻の監視艇で24時間監視していました。B-25の16機空襲部隊を乗せた空母ホーネットは4月18日早朝、日本の監視艇に発見され、午後発進、夜間奇襲の計画を急遽変更し、日本時間7時25分、16機は緊急発進、編隊を組まず各機4分おきに、爆弾を減らし燃料を余分に搭載し、東京まで1200キロ有り、予定より300キロも遠い地点からの発進であり、日本は陸海軍とも艦載機の行動範囲を500キロ弱と考えていたため、空襲は19日早朝になると思込んでいました。ところが18日午後0時30分頃、東京に侵入したB-25が最初の爆弾を投下、川崎、横須賀、名古屋、四日市、神戸に21発の爆弾と1465発の焼夷弾を投下していききました。

本によると、ドゥーリットル一番機は、私が昭和通りで見たあと、上野を通過し、神田で右に曲がり、後樂園裏に陸軍の軍服を作っていた大きな工場に爆弾を投下し、その後、川崎、横須賀にも投下し、太平洋に出て、海岸線を南下、中国の浙江省まで飛んだという記録が残っております。私は70年以上経った今でも、至近距離で後部機銃操者と合った青い目が脳裏に焼きついております。

□探鳥会報告□

日時：平成 25 年 11 月 23 日（祝）

天候：晴

参加者：小田桐 石居 三好 佐々木 鈴木 松林 飯山

鈴木 萩原 栗山 越田 村岡 計 12 人

確認された鳥：ヒドリガモ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ

キンクロハジロ カイツブリ キジバト ダイサギ

コサギ ユリカモメ カワセミ コゲラ

ハシブトガラス シジュウカラ ヒヨドリ メジロ

計 16 種

コメント：小春日和の上天気の中、樹々は色づいておりました。その中をみなで楽しく歩きました。冬鳥はまだ来ておらず、鳥は少なかったです。が、じゅんさい池にめずらしくカイツブリ 1羽がおりました。

村岡幸生

次回

2月 23 日（日） 雨天中止

集合 小塚山あずまや 10 時

解散 じゅんさい池 12 時

〈お問合せ〉越田 (327) 8936

*あれば、双眼鏡・メモ帳をご持参ください

バードウォッチングに参加して

鈴木 秀子

晩秋のおだやかな一日でした。木々の紅葉もちょうどいい時期で、日差しがさし込む林の中を鳥の声をもとめて歩きました。

はじめに村岡先生からバードウォッチングのころえをお聞きました。鳥の姿が見なくても鳥の鳴き声を覚えること、その鳴き声を自分なりにメモすること、鳥の習性を知ることなどです。鳥の鳴き声が変わらないとバードウォッチングの楽しみは三分の一になるなど、いまだ鳴き声がよくはわからない私には耳の痛いお話でした。

鳥は例年より少なかったです。その原因が温暖化の影響もあるのか気になります。

それでもメジロ、そしてコゲラが木をつついての姿も観察でき、カワセミも私たちの前を横切ってその姿をみせてくれました。珍しいところでは、カイツブリもみました。天気もよく、風もなく、本当に気持ちのいい一日を充分味わった一日でした。

北国分の地域環境はどうなるの？

北国分2丁目 菅野 順子

小塚山周辺の環境は外環工事が進む中、大きく変わりました。国分操車場から県道中矢切を歩くと、かなり深い地下が掘られ、高速道路と国道の二階建て道路となる予定で、あまりの深さにわたしは恐怖心も感じます。

北国分から国府台やじゅんさい池に向かう直線道路（通学路）は閉鎖され、遠回りの蛇行道路と化し、猛スピードで車が行き来し、見通しは悪くなりました。

小塚山トンネル付近の住民は、去年夏、「大型トラックの出入は四六時中で、振動や騒音に悩まされ心身共に疲れた」と、深刻な状態でした。北国分1丁目と2丁目は外環で分断され、2丁目から4丁目、堀之内地域は陸の孤島となりつつあります。

昨年7月、首都国事務所は、中国分小学校で工事説明会を開きました。外環と一緒に建設している一般国道部（298号）と副道（自転車道・歩道）などについてでした。地図上の説明だけでは実際にどこがどうなるのか分からず、住民には不安な気持ちになっています。市川市政ガイドブックの「都市計画マスタープラン」には、「市川市は歴史・文化・自然を活かし、潤いと安らぎのある都市づくり、都市基盤が整い、安全・安心して暮らせる都市づくりへ…」とあります。北国分は風致地区（自然美を保存するための制度。建築・樹木の伐採など一定の制限が加えられる）と聞いていますが、今どうなっているのでしょうか。

「外環工事で今後はどうなっていくのか」「通学路になる歩道や陸橋はどこにできるの？そして、それは安全な場所なの？」

市や事業者にもっと具体的な、地域住民への心の通う、誠意ある説明を求めてゆこうではありませんか。

今年午年。北国分には4丁目の2丁目との境に馬頭観音を祀った小祠が6基ある。このうち2基はもともとは見晴台下の庚申塔の位置にあったものという。文政4年（1821）、弘化3年（1846）、同4年、明治4年、大正9年、同13年に建立された。斃れた馬の供養のためのもので、この地は、かつて大池と呼ばれ、湧水を溜めた大きな沼があった。三叉路で、幕末から明治、大正頃まで往来の多かったことを物語っている。明治41年の開墾記念碑もある。

初冬を彩る木の実・草の実

谷口 浩之

冬枯れの野山を歩いていると、葉に隠れていて気付かなかった熟した実の彩に眼が向きます。文字通り紫色のムラサキシキブをそこかしこに見ることができます。街には、センリョウ、マンリョウ、アオキ、ナンテンなどが赤い実をつけ、お正月気分を盛り上げています。

晩秋から12月寒さが増す頃、“緑のまち”を歩いていると、堀之内貝塚のフェンス越しにからんだ蔓に小さな黒い種を付けた赤茶色のさやを見つけました。タンキリマメです。花は夏に咲き、秋に実が熟するとさやがはじけて、2個の黒い種は左右に分かれて冬になるまでついています。黒い種は、名の通り「痰を切る豆」として利用されてきたのでしょうか。



以前、真冬の散策会でマユミの見たことを思い出しました。

4つに割れたピンクの実の中に、赤い種がのぞき、枝にぶらぶら下がるようにしている姿は、それは可愛いものでした。“緑のまち”にもあるかなと思い、ある冬の日、つれあいと探し回りました。これも堀之内貝塚のフェンスで、たくさんの実を付けたそれを見つけた時は、本当にうれしかったです。

マユミは、材質が強くなるので、かつて弓を作る材料にしたといわれていますが、堀之内のマユミは細い木でした。弓にするにはあまりにも小さく無理かなと思いました。

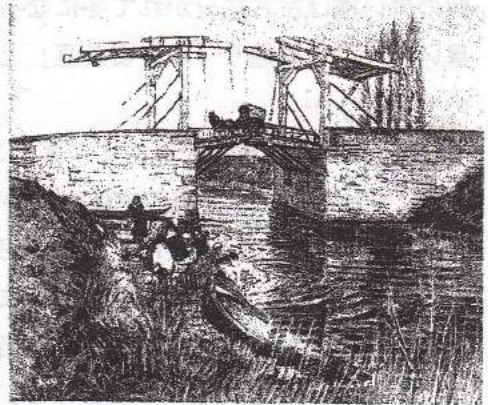
小塚山にも行ってみました。最初に見つけたのは、フェンスからぶら下がっているヘクソカズラです。かわいらしい花から想像もつかない名をもらったのは、葉、茎が異臭を放つからでしょう。葉は枯れたが茶色の実はまだ臭いそう。隣には、プチトマトのようなヒョドリジョウゴの赤い実。家の庭でしているようにちょっとつまんで口に入れたくなるが、おっと危ない。鳥も食べない。

きれいな赤い実がはげて、黒い種が1つ顔を出しているゴンズイを見つけた。じゅんさい池にもあったが、この赤色はきれい。きっと鳥が寄ってきそう。

冬枯れで寂しくなった雑木林も、気を付けて歩くと冬鳥に精一杯アピールし、仲間を増やそうとしている植物の営みがありました。

緑のまちあれこれ

- あけましておめでとうございます。今年のお正月は三が日も晴れて穏やかで静かな感じではありましたが、世情はますますきびしくなりそうです。4月には消費税が上がり、物価は当然高騰します。特別秘密保護法など、きな臭い法律が可決されでもしたら、大変な世の中になるかもしれません。
- 平成27年完成予定の外環が、2年後の平成29(2017)年完成予定ということに正式に決まりました。なんとしても東京オリンピック前に高速環状線を整備したいということなのでしょうか。北国分での本体工事もこれから本格化するものと思われます。騒音・振動・埃や大気汚染、なにをとっても住民に迷惑この上もない厄介事には違いありません。今後とも国に対する市の姿勢など、積極的に働きかけてもらいたいものだと思います。
- 一昨年の市川市民芸術文化賞を受賞された北国分1丁目在住の画家、竹内庸悦さんの美術講演会が、2月16日(日)午後1時半から市川市文化会館地下1Fのローズルームで開催されます。「ゴッホの旅路を追って—その原風景に立って心と美術の糸をたぐる—」というテーマで、スライドなどを交え、ゴッホにアプローチするためのキーワードをお話しになるとか。参加は無料ですが、事前に047-379-5111(市川市文化振興財団)に電話でお申込ください。先着順100名までということです。



■ 編集後記 ■ 新年号なのでお正月向きのものをも考えたのですが、とりあえず例年の新春詠と、今回は初詣ということではないのですが、亀戸天神について書いていただきました。また、石居靖弘さんの「東京初空襲の日 ソースアメリカン B-25 との遭遇」を機に、「私は戦争を忘れない」というテーマで北国分の方々に毎回寄稿をお願いする連載シリーズを企画してみました。直接の戦争体験された方はもうほとんどなくなっていますが、ヒロシマやナガサキの原爆に関してはもちろん、戦災や引揚、疎開など、また終戦前後の食糧難、朝鮮動乱・ベトナム戦争・イラク戦争の感想でもいいと思います、戦争へのそれぞれの思いをお寄せいただければ幸いです。